個　人　質　問	議会事務局 処　理　欄	令和８年１１月６日　８時３０分　受付
		質　問　順　位　第　7　番

武豊町議会議長　石川　よしはる　殿

武豊町議会議員　　久野　勇

一　般　質　問　の　通　告　に　つ　い　て

令和８年第４回武豊町議会定例会において、次のように質問したいから通告します。

質　問　事　項	質問の要旨(具体的にご記入願います)
１．地域計画を踏まえた持続可能な農業の推進について	【趣旨説明】 本町の農業を取り巻く環境は、担い手不足や農業従事者の高齢化・減少、遊休農地の増加などにより、年々厳しさを増しております。 農業は、食料を生産するだけでなく、農地や農村環境の保全、水害防止機能の維持など、地域社会を支える重要な役割を担っております。しかし、農業従事者の減少や農地利用をめぐる課題が進行すれば、将来にわたって地域農業を維持していくことが困難になることも懸念されます。 こうした中、本町では令和７年３月に町内８地区で地域計画が策定されました。地域計画は、地域の将来の農地利用や担い手の姿を明らかにし、農地の集積・集約化を進めながら、地域農業の維持・発展を図るためのものです。そのため、計画の策定にとどまらず、実現に向けた具体的な取組を着実に進めていくことが求められます。 私は、令和６年６月定例会で本町農業の将来像について質問し、町からは、地域計画の策定や担い手の確保・育成、農地の集積・集約化を進めるとの答弁をいただきました。さらに、令和８年３月定例会で、改めて、農業の将来像と農地の集約化について質問し、町からは、担い手育成やスマート農業・有機農業の推進などにより、10 年後の農業基盤の強化、20 年後の持続可能な農業の確立を目指すとの答弁をいただきました。 現在、地域計画は策定後最初の検証段階にあります。そこで、これまでどのような取組が行われ、課題をどのように把握しているのかを確認することの重要性が増しています。特に、担い手の確保・育成、農地の集積・集約化、遊休農地への対策、有機農業の推進について、計画策定後の取組状況や、今後の課題を明らかにする必要があります。 以上を踏まえ、地域計画策定後の取組状況と成果をはじめ、農地の集積・集約化、担い手の確保、遊休農地対策及び有機農業推進の現状と課題について伺います。あわせて、本町が目指す持続可能な農業の実現に向け、今後どのような方向性で取り組んでいくのか伺います

	【質問事項】 （１）地域計画の策定にあたり、地域の課題や農業者の意見を集約し、どのように計画に反映させたか。 （２）地域計画及び目標地図に基づく農地集積・集約化は現在、どのように進めているのか。 （３）農業者の減少・高齢化が進む中、地域農業を持続的に発展させていくためには、新規就農を促進し、定着を図る必要があると思うが、認定農業者、認定新規就農者及び農業法人等はどのような状況か。 （４）有機農業及び持続可能な農業の推進について、実証事業や補助制度の活用状況を含め、現在までの成果及び課題について。 （５）地域計画及び目標地図の達成に向けて、今後どのような施策を重点的に進める考えか。